

時代を生きる

福井雅人

昭和六年（一九三一年）十一月、私の父福井久和は東京中野の新井薬師に福井家の四番目の子供、三男坊として生まれました。私の母は昭和八年（一九三三年）に山梨県の甲府市に生まれました。共にいわゆる昭和ひと桁、青春時代を戦中、戦後に過ごした世代です。二人の出逢いは戦後間もない母親が勤める、国立相模原病院の助かる見込みの無い結核患者が入る死の病室。其処へ私の父が入院して来たのです。現にその四人部屋に居た四人の内三人迄が亡くなってしまったそうですが、しかし父親は歳がまだ若かったのと、病状の進みが他の三人よりも遅かったので、当時の結核の特効薬、ストレプトマイシンの開発、投与により、病状がみるみる回復し、一命を取り止めたのでした。この父親と母親の出逢いが無ければ、当然私は生まれることはなく、此処迄の六一年の人生も無かった訳です。父親は結核により、死の病室に入ったことで死の宣告を受けていたところから甦りましたが、気胸という治療をしていたので片肺を潰し、他の人より肺活量が少ないため運動はあまりできずいたのでありますが、それでも私達兄弟が子供の頃は、毎年、夏には海水浴に連れて行ってくれたものでした。病気の後には運動もろくにできなかった父でしたが、子供の頃は剣道をやっていて初段を持っていたそうです。父の話では、今の初段とは格も実力も違う（自慢）と云うことで、父が通っていた道場では、竹刀で打ち合うだけでなく、相手の足を掛けて倒したり、打ち身を当てることまでしたそうです。そんな活発な子供だった父がどうして結核にかかり入院するに至ったのか？そこまでの父の高校生時代を少し振り返ってみます。父は第二次世界大戦中に都立三鷹工業高校に入学したのですが、東京の大空襲に遭い、父親（私の祖父）の田舎であった福島県の会津若松に疎開して、会津工業高校に編入します。最初の頃は地元の悪ガキ共々に、子供の頃剣道で鍛えられていたために、やられたらやり返す。ずっと負けていた訳でもなく、悪ガキ共もそれ以上のことはして来なかったそうです。そして終戦になり、家族で神奈川県相模原市に出て来た事に依り、東京の八王子工業高校に入学し、其処を卒業しました。高校生と云う多感な時期に戦争という時代に翻弄された青春を送り、高校を三つも行く。そして卒業して入った商事会社を病気（結核）になったことにより退職迄の一年余りが、父の言うところによる自分自身の唯一の「青春時代」だったと後

年私に話していました。しかし、その病氣（結核）になったことで入院した病院で、しかも助からないと言われた死の病室で、部屋付きの看護婦だった母親と出会い、新薬（ストレプマイシン）の開発に間に合い助かった事で、母との金婚式を超える人生に繋がったのですから、人生何処でどう転ぶか判らないものです。

一方の母親はどんな戦中戦後の青春時代を過ごしたのでしょうか。母は山梨県の甲府市に生まれ、活発な少女として育ちました。そんな中、米軍の首都東京への空襲に依り、それ迄戦禍を避けるため疎開して来た人達、或いは都心から焼け出された人達が来る山梨県の甲府にも、米軍の空襲が来るようになり、甲府の街を幼い弟を背におぶって逃げ回ったそうです。中でも大勢の甲府市民が亡くなった時の空襲では、川の方へ逃げた人達は壊滅し、たまたま、余りに人が多かった川の方からはじき出され、仕方なく向かった山の方へ逃げたために助かったのです。其処で終戦を迎えた母も、家族と共に相模原に移り住みました。戦後町田高校に進学し、卒業しますが、六人兄弟で長男は戦争で満州に行き、女四人姉妹は、長女が平塚の軍需工場で働き、他の三人は皆、看護学校を経て看護婦となり、三人共、病院での出逢いに依り結婚しています。一番下の弟（私のおじさん）は高校を卒業しています。私の母とて、看護婦になったとは言え、今の私の職場へ実習に来る学生達のように、大学を出て看護師になる訳でもなく、もちろん、夢も希望も抱いて、覚悟もあつた上での事ではあるのでしょうか、望む望まないもなく、進学するための経済的な事情により、人生の内が一番楽しい、美しい時代をこのような形で過ごさざるを得なかった無念さは、どのようなものであったのでしょうか？ 然し母も高校時代は、当時珍しかったバスケットボールに汗を流したそうです。その後父親と結婚して儲けた三番目の子供（私の弟）が中学でバスケットボール部に入るとは思いも寄らなかつたことでしょう。これも何かのおぼしめしなのではないでしょうか。母が看護婦となり、就職した病院で、しかもたまたま配属された死の病室で父と出逢い、其処で死ぬ筈だった父が生き残り、片肺で体力の無くなった父親との結婚も猛反対されるのですが、そこを二人の愛の力で乗り切り、私、妹、弟の三人の子供に恵まれたのですから、人の運命の、人生の妙と云うものは、六十歳を超えた私にして、いや、この歳の私だからこそ、解らない運命であり、その後の人生だと思つと、感慨深いものがこみ上げて来ます。

私は昭和三五年（1960年）七月に父福井久和、母菊枝の長男として生まれました。私は幼い頃から病気がちで、小児喘息を患い、病院通い、入退院を繰り返しました。私の弟もやはり小児喘息持ちで、真中の妹だけが丈夫で手の掛からない子供でした。父親が三男にも拘らず、家に居て、祖父、祖母と暮らしていて結婚をし、後を継いだために、

私は長男として現在後を継いでいますが、私をして福井家にまつわる様々な歴史・出来事を書いてみたいと思います。私の（福井家の）本籍地は東京都港区白金台です。何故そのような高級住宅地に本籍地があるのでしょうか？ それは、江戸時代の末期から明治にかけて、私の高祖父（ひいおじいちゃん）が静岡から当時の江戸（東京）へやって来ました。明治維新という歴史の転換点に立った高祖父は、東京で一旗上げるべく静岡の田舎から大志を持って出て来て起業しました。その当時は鉄砲鍛冶をやっていたそうです。鉄砲の製造、販売、修理。そしてそれで成功すると事業の手を上げ、明治政府に依る富国強兵策に乗じ財を成しました。そして結婚し子供が生まれ育つと跡を継がせ、自分の出身地である静岡県の元庄屋の娘である邦さんを息子である鑑四郎さんの嫁に貰います。地元の名士である元庄屋の娘を嫁に貰えると云うのは、いかに福井家が当時、隆盛を極めていたのか分かります。その二人の唯一の女の子として生まれたのが私の祖母（庸さん）です。いわゆる良家のお嬢さんとして生まれ育ち、学業優秀で行くは女学校を出て学校の先生にもなれると言われた才女でした。しかし病弱だった兄二人は早逝し、唯一の子供となった祖母も関東大震災に遭い、瓦礫で埋まった街を無事に生きて家に帰った時には、両親に泣いて抱きしめられたそうです。そこで一人娘として成長する祖母ですが、大戦中の預金していた銀行の倒産により家の事業が傾きます。現在のように何の保障もない時代に波にさらされ、憂き目に遭うのは命取りです。いわゆる良いこのお嬢さんだった祖母は一気に没落します。しかしここでも祖母の運命は一転します。良家の娘だった祖母はそれ迄ならば出逢うことも無かった祖父と巡り逢います。祖父は福島の会津若松の農家の出身で、然も次男坊、いわゆる農家の子供は長男以外は食えないのです。仕事を東京に求めた祖父（佐々木重喜）は本来ならば近寄れなかったかも知れない祖母と知り合い惚れ込みます。祖母の話によると、祖父は足しげく福井家を訪れては家の手伝いをしたそうです。東京で職を求めた祖父は東京芝浦電気就職試験に合格します。ところが合格の一報を福島の田舎で受け取った祖父は、田舎での用事のために就職の締切の期日に一日間に合わず、東芝への就職を逃します。いくら大事な用事に、当時の鉄道事情の悪さとは言え何と運の無い事でしょう。祖母は後にその無念さを、おじいちゃんがあの時東芝に就職をしてさえいれば、その後の苦労も無かったのではないかと、と言っていたものでした。後に何回かの転職を余儀なくされ、西武鉄道に勤めた時に線路のレールのポイントに足を挟まれ、片足の膝から下を失い、義足になった祖父ですが、祖母の話によると二人で高尾山に登った時など、祖母よりも義足の祖父の方がよほどしっかりとしていたと自慢していました。若い頃祖父（おじいちゃん）は時の海兵隊に入っていました。私の部屋の戸袋から出て来た祖父の海兵隊時代の写真を観て、祖

母は格好いいと喜んでいました。

私の父は戦争中学生でしたが、上の二人の男兄弟は、長男の重治伯父さんが海軍に行き、次男の実伯父さんは予科練（神風特攻隊）に入りますが終戦により一命を取り止めます。もっとも其の頃には日本にはガソリンも鉄も何も無く、到底飛行などできる状態ではなかったようです。父の話に依ると、米軍のB29による東京への空襲は焼夷弾をバラバラと落としました。火と云うのは落ちると横に燃え広がるのだそうです。木造家屋の日本の街に焼夷弾を落として建物ごと焼き殺してしまう。なんと残酷な事でしょうか。家の防空壕の中で外の光景を眺めた父は震え上がったそうです。時に戦争は人を狂気と化します。勝つためには手段を選ばないのです。父も母も若い頃は戦争について語ろうとしませんでした。それだけその実体験が生々しく、触れたくなかったのです。然し晩年、父も母もいわゆる語り部のように、私に戦争中当時の事を遅まきながら話し始めました。現在に於いて、戦争体験者としての語り部と言われる人は少なくなりました。私は戦争体験者ではありませんが、第二次世界大戦が終わって僅か十五年、昭和三五年（一九六〇年）生まれの私には、戦争体験者の両親がいました。その二人から聞いた戦争の話を、私がしっかりとこの身に受け止め、未来へ、戦争の話すら知らない若い世代へ決して大きな話ではなく、伝えて行かなければと思っています。